

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014 年 11 月 10 日

No.6

**組合：要求額は2.5ヵ月！要求額から判断すべき！**  
**会社：収入動向を勘案すると夏季手当も厳しい！**

— 2014 年度 年末手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日11時から第4回年末手当交渉を行い、年末手当に対する会社の考え方が示されました。

- ①収入動向で、10月は台風の影響もあり速報ベースでは、対計画83.1%の19億9000万円の減収。
- ②11月9日現在、対前年103%であるが、計画に対しては1億1000万円の減収である。
- ③下期は、既存顧客の運賃修復や低積載率の向上、新規開発や既存荷主の増送など営業施策に全力を傾注していく。
- ④中間決算は増収増益だが、鉄道事業部門は営業費用の増大などで計画より2億9800万円悪化している。体質改善が必要である。
- ⑤収入動向を勘案すれば、今年度の夏季手当も厳しい。

これに対して中央本部は、現時点の会社の考え方に対して、以下の点を主張しました。

- ①営業施策等それぞれの目標があるが、トップセールスの目標を設定しないことは会社の体質である。職場は大変な状況の中業務をしている。その部分を評価すべきだ。会社の体質改善の取り組みが見えない。
- ②労使でこの難局を乗り切るならば、年末手当に反映させるべきである。夏季手当も厳しい根拠は何か。
- ③計画は立てた通りの施策が必要であるが、それが見えない。経営体質の改善なしに鉄道事業部門は黒字にならない。収入も対前年で100%を超えたのは組合員の努力である。それで夏季手当も厳しいと言うのはおかしい。上期の結果に対して会社は組合員にできていないし、職場は報われていない。

中央本部の指摘に対して会社は、

- ① 体質改善とは仕事の仕組みを変える意味であるが、時間がかかっていることは否定しない。
- ② 夏季手当も厳しいのは、平成28年度鉄道事業の黒字化に向かっていくため、災害の影響や、下期は動力費の直上げ等コストがかかるためである。
- ③ 経営の側から見ると、災害減収もあるので、社員と一緒に頑張ろうとしか言えない。本日の交渉は、会社の考え方を示す場である。交渉経緯を経営陣に報告し、回答指定日に示す。

最後に中央本部は、貨物労組は、職場では施策以外でも工夫して取り組んでいる。それを踏まえて年末手当について経営トップで議論すべきである。本日の回答では到底納得できるものではない。我々の要求額は2.5ヵ月である。《回答指定日までに》再考を求めることを会社に通告し交渉を終了しました。

組合員のみなさん！経営陣は、年末手当査定期間である上期を黒字達成したにも拘らず、「夏季手当も厳しいと言わざるを得ない」と無責任な対応に終始しています。交渉経緯を踏まえ、これまでの苦勞に報いる回答を示さないと納得できません。今度は会社が組合員に対して責任を果たす時です。

本日以降、山場の闘いに突入しました。明日は全国統一行動日です。全組合員が結集し、一丸となって安全問題をはじめ欠員対策、増収施策、災害対応に汗を流してきました。この苦勞に報いさせるために低額回答に対する“怒り”を会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

回答指定日は11月14日（金）です。